

グローバル時代を生き抜く‘どローカル’（地域のあるべき姿）を考える やまがた商い、寄席 （第1回・第2回）を開催しました。

第1回目

第1回目は、9月18日（火）に東京大学経済学研究科ものづくり経営研究センター
特任研究員の伊藤洋氏にご講演いただきました。



伊藤氏は、山形大学工学部卒業後、本田技研工業に入社し、金型設計・四輪車体生産技術
・新生産技術開発、英ローバーへの技術支援などに携わり、ホンダエンジニアリング取締役を
務められた方です。

創業者・本田宗一郎氏の「ないものをつくれ」という精神をご紹介後、人の真似をせず独自の発想をも
とに行動することからイノベーションは生まれること、そして、グローバル時代を生き残るために個々
人が自ら殻を破って進化しなければならないことを語っていただきました。

また、講演後は、参加者から活発な質疑応答がなされました。



（写真：第1回目の様子）

第2回目



第2回目は、10月15日（月）に[工業デザイナーの奥山清行氏](#)にご講演いただきました。

奥山氏は、イタリアのPininfarina社在籍中はデザインディレクターとしてFerrariやMaseratiなどで自動車や航空機などをデザインされ、現在はデザインコンサルティングの他、オリジナルブランドで自動車、眼鏡、家具などの企画、開発、販売をされている方です。

NEEDSとWANTSの違いをご説明後、購入後に広がる世界やライフスタイルの顧客への提供を考えるべきと指摘。これからの100年をデザインすると題して、今後は業界目線での産業構造から顧客目線での新産業構造へ、「ものづくり」から「ことづくり」へと変化させなければならない、と強調され、最後に未来のコンパクトシティについて語っていただきました。日本人には「議論力」が欠けている、小学校で議論の仕方を教えるべき、とのご指摘もありました。

奥山氏のスケジュールの都合上、質疑応答する時間はありませんでしたが、熱のある講演を聞いた参加者にそれぞれの「気づき」があった寄席になりました。



（写真：第2回目の様子）

第3回目は、[11月30日（金）](#)に[アルプス電気株式会社取締役の梅原潤一氏](#)をお招きして、「事業撤退と新分野進出の課題と対策-知財と独禁法の視点から-」についてご講演いただく予定です。（詳細は確定次第、同HPでお知らせします。）

このやまがた商い寄席を通じて、グローバル変化を共有し、参加者それぞれが直面する課題解決のヒントを得、地域や自分の強みを再発見いただければ幸いです。
学内外から多数の皆様の参加をお待ちしております。